

13.12.2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年11月19日
Date of Application:

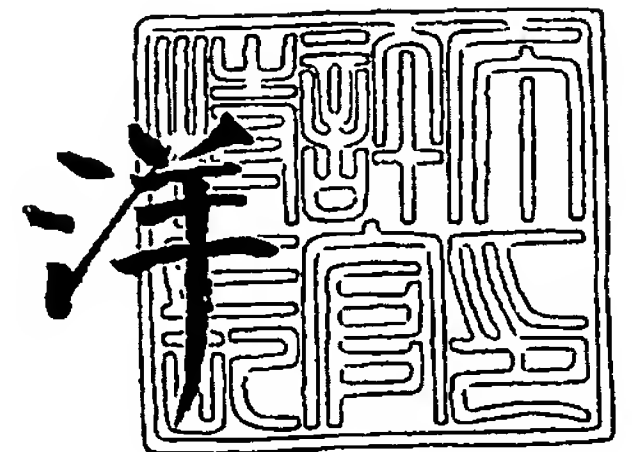
出願番号 特願2003-388884
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2003-388884]

出願人 株式会社カネカ
Applicant(s): カネカ ベルギー ナムローゼ フェンノートシャップ

2005年 1月27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



出証番号 出証特2005-3003259

【書類名】 特許願
【整理番号】 B030459
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 C08L101/10
【発明者】
 【住所又は居所】 ベルギー王国、B-2260 ウェステルローーウーベル、ニー
 ベルハイトストラート 16 カネカ ベルギー エヌ. ヴイー
 内
 【氏名】 福永 淳
【特許出願人】
 【識別番号】 000000941
 【氏名又は名称】 鐘淵化学工業株式会社
【特許出願人】
 【識別番号】 593227925
 【氏名又は名称】 カネカ ベルギー ナムローゼ フェンノートシャップ
【代理人】
 【識別番号】 100086586
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 安富 康男
【選任した代理人】
 【識別番号】 100115141
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 野田 慎二
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 033891
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

(a) 1 分子中に少なくとも 1 個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体と、(a) 1 0 0 重量部に対して 5 から 5 0 重量部の (b) 炭化水素系可塑剤、及び 1 0 から 2 0 0 重量部の (c) 針状結晶性フィラーを含有することを特徴とする硬化性樹脂組成物。

【請求項 2】

炭化水素系可塑剤 (b) が、1 分子中に少なくとも 1 個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体 (a) 1 0 0 重量部に対し、2 0 から 4 0 重量部の量で含有される請求項 1 に記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 3】

炭化水素系可塑剤 (b) が、パラフィン系炭化水素である請求項 1 または 2 記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 4】

炭化水素系可塑剤 (b) が、シクロパラフィン系炭化水素である請求項 3 記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 5】

針状結晶性フィラー (c) が、セピオライト、アスベスト、ウォラストナイト、針状結晶型炭酸カルシウム、ガラス繊維、炭素繊維及び有機繊維からなる群より選ばれるものである請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 6】

針状結晶性フィラー (c) が、針状結晶型炭酸カルシウムである請求項 5 記載の硬化性樹脂組成物。

【請求項 7】

1 分子中に少なくとも 1 個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体 (a) の反応性ケイ素基がアルコキシシリル基である請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の硬化性樹脂組成物。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 硬化性樹脂組成物

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、カートリッジからの押出し性が良好で、且つ垂直面に塗布したとき基材を瞬時に固定できる初期固定性を発現することのできる反応性ケイ素基を有したポリオキシアルキレン重合体を含有する硬化性樹脂組成物に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

溶剤型ゴム系接着剤は、塗布後一定時間のオープンタイムを取ることで、仮止めすることなく、被着体を下地へ貼り合わせることができる。しかしながら、該接着剤は溶剤を含むことから、人体への毒性や引火による火災の危険がある等の欠点があった。

【0 0 0 3】

溶剤問題を解決する為、水性エマルジョン型接着剤の検討が行われたが、水系であるために硬化時には水の揮発が必須であり、水分を通さない金属やプラスチック基材では使用が困難であるという問題点がある。また、特許文献 1 では、新たな無溶剤系コンタクト型接着方法が提案されている。これは、加水分解性ケイ素基含有ポリオキシアルキレン系重合体と加水分解性ケイ素基含有（メタ）アクリル酸エステル共重合体から成る湿気硬化型接着剤を用いるものであり、溶剤型ゴム系接着剤と同様、所定のオープンタイムをとった後、接着物を仮止めすることなく貼り合わせることができる。しかしながら、該接着剤の場合は所定のオープンタイムを取る必要があり、直ちに固定できないのが問題であった。

【0 0 0 4】

これらの課題を解決する手段として、特許文献 2 に示されるような加水分解性ケイ素基含有有機重合体を用いた接着剤組成物の高粘度化が挙げられる。高粘度の接着剤組成物は両面粘着テープと同様な仮止め能を発揮し、硬化により永久固定させることができる。ところが、該組成物が充填されたカートリッジやソーセージ等を手動シーリングガンや手動コーキングガンへ装着し押し出そうとした場合、押出しに大きな力を必要とし迅速な突出が困難であった。押出し性を向上させるために接着剤組成物の粘度を下げると、塗布後の初期固定性が十分に得られず、接着物がずれ落ちる等の問題があり、押出し性と初期固定性を両立させることは困難であった。

【0 0 0 5】

【特許文献 1】 特開平 3 - 2 6 3 4 7 8 号

【特許文献 2】 特開 2 0 0 1 - 3 1 1 0 5 6 号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 6】

すなわち本発明の目的は、カートリッジからの押出し性が良好で、且つ垂直面に塗布したとき基材を瞬時に固定できる初期固定性を発現することのできる、反応性ケイ素基を有した有機重合体を含有する硬化性樹脂組成物を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0 0 0 7】

本発明者らは上記課題を解決するため鋭意検討した結果、カートリッジからの押出し性と、垂直面に塗布したとき基材を瞬時に固定できる初期固定性を兼ね備えた硬化性樹脂組成物を見出し、本発明に至った。

【0 0 0 8】

すなわち本発明は、1 分子中に少なくとも 1 個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体と、その有機重合体 1 0 0 重量部に対して 5 から 5 0 重量部の炭化水素系可塑剤、及び 1 0 から 2 0 0 重量部の針状結晶性フィラーを含有することを特徴とする硬化性樹脂組成物に関する。

【発明の効果】

【0009】

本発明は、カートリッジからの押出し性が良好で、且つ垂直面に塗布したとき基材を瞬時に固定できる初期固定性を発現する、反応性ケイ素基を有した有機重合体を含有する硬化性樹脂組成物を提供する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

本発明に使用される (a) 1 分子中に少なくとも 1 個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体の主鎖骨格は、本質的に一般式 (1) :

【0011】

【化 1】



【0012】

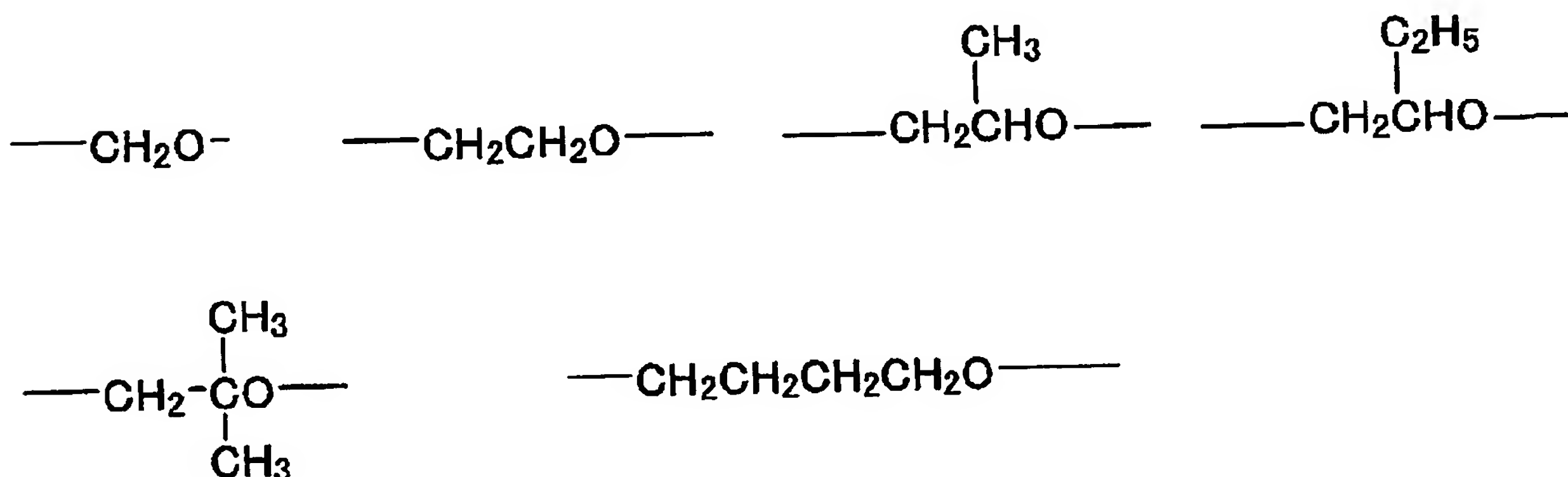
(式中、 R^1 は 2 価の有機基であり、炭素数 1 ~ 14 の直鎖状もしくは分岐状アルキレン基が好ましい。) で示される繰り返し単位を有するものである。

【0013】

一般式 (1) における R^1 は、炭素数 1 ~ 14 の、さらには 2 ~ 4 の、直鎖状もしくは分岐状アルキレン基が好ましい。一般式 (1) で示される繰り返し単位的具体例としては、例えば、

【0014】

【化 2】



【0015】

等が挙げられる。ポリオキシアルキレン系重合体の主鎖骨格は、1 種類だけの繰り返し単位からなってもよいし、2 種類以上の繰り返し単位からなってもよい。特にシーラントや接着剤等に使用される場合には、オキシプロピレンを主成分とする重合体から成るのが好ましい。

【0016】

ポリオキシアルキレン系重合体の合成法としては、たとえば KOH のようなアルカリ触媒による重合法、たとえば特開昭 61-215623 号に示される有機アルミニウム化合物とポリフィリンとを反応させて得られる錯体のような遷移金属化合物—ポリフィリン錯体触媒による重合法、たとえば特公昭 46-27250 号および特公昭 59-15336 号などに示される複金属シアン化物錯体触媒による重合法等が挙げられるが、特に限定されるものではない。

【0017】

上記ポリオキシアルキレン系重合体の主鎖骨格中にはポリオキシアルキレン系重合体の特性を大きく損なわない範囲でウレタン結合成分等の他の成分を含んでもよい。

【0018】

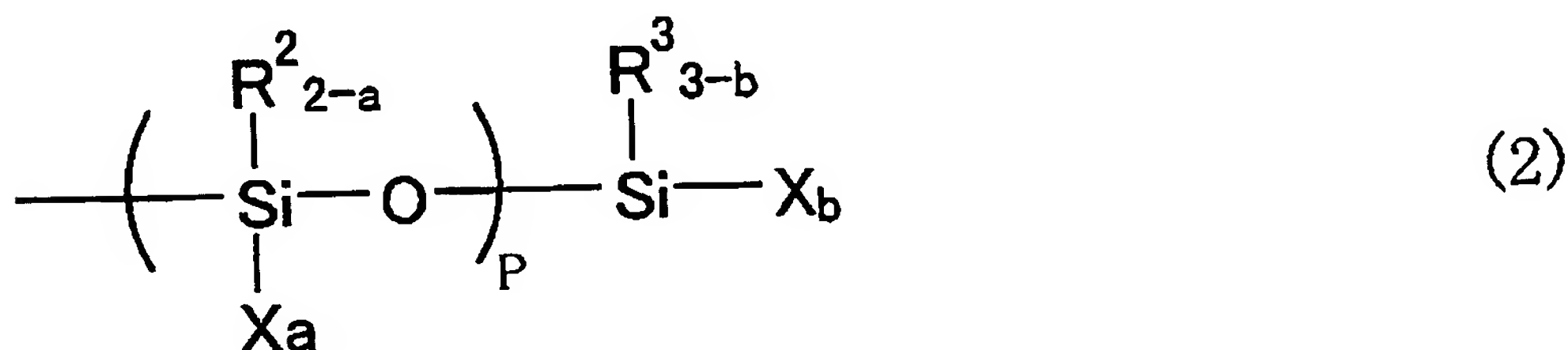
上記ウレタン結合成分としては特に限定されず、たとえばトルエン（トリレン）ジイソシアネート、ジフェニルメタンジイソシアネート、キシリレンジイソシアネート等の芳香族系ポリイソシアネート；イソフォロンジイソシアネート、ヘキサメチレンジイソシアネート等の脂肪族系ポリイソシアネートと上記一般式（1）の繰り返し単位を有するポリオールとの反応から得られるもの等を挙げることができる。

【0019】

（a）成分中に含有される反応性ケイ素基はケイ素原子に結合した水酸基又は加水分解性基を有し、シロキサン結合を形成することにより架橋しうる基である。代表例としては、一般式（2）：

【0020】

【化3】



【0021】

（式中、 R^2 および R^3 は、いずれも炭素数 1～20 のアルキル基、炭素数 6～20 のアリール基、炭素数 7～20 のアラルキル基または R^4_3SiO —（ R^4 は炭素数 1～20 の 1 価の炭化水素基であり、3 個の R^4 は同一であってもよく、異なってもよい）で示されるトリオルガノシロキシ基を示し、 R^2 または R^3 が 2 個以上存在するとき、それらは同一であってもよく、異なってもよい。X は水酸基または加水分解性基を示し、X が 2 個以上存在するとき、それらは同一であってもよく、異なってもよい。a は 0、1 または 2 を、b は 0、1、2 または 3 を、それぞれ示す。また p 個の一般式（3）：

【0022】

【化4】



【0023】

における a は同一である必要はない。p は 0～19 の整数を示す。但し、（a の和）+ b ≥ 1 を満足するものとする。）で表わされる基が挙げられる。

【0024】

上記 X で示される加水分解性基としては、特に限定されず、従来公知の加水分解性基であればよい。具体的には、たとえば水素原子、ハロゲン原子、アルコキシ基、アシルオキシ基、ケトキシメート基、アミノ基、アミド基、酸アミド基、アミノオキシ基、メルカプト基、アルケニルオキシ基等が挙げられる。これらの内では、水素原子、アルコキシ基、アシルオキシ基、ケトキシメート基、アミノ基、アミド基、アミノオキシ基、メルカプト基およびアルケニルオキシ基が好ましく、加水分解性が穏やかで取扱やすいという観点から

アルコキシ基が特に好ましい。

【0025】

該加水分解性基や水酸基は1個のケイ素原子に1～3個の範囲で結合することができ、(aの和)+bは1～5の範囲が好ましい。加水分解性基や水酸基が反応性ケイ素基中に2個以上結合する場合には、それらは同一であってもよく、異なってもよい。

【0026】

前記反応性ケイ素基を形成するケイ素原子は1個でもよく、2個以上であってもよいが、シロキサン結合等により連結されたケイ素原子の場合には、20個程度であってもよい。

なお、一般式(4)：

【0027】

【化5】



【0028】

(式中、 R^3 、 X 、 b は前記と同じ)で表わされる反応性ケイ素基が、入手が容易である点から好ましい。

【0029】

また上記一般式(3)、(4)における R^2 および R^3 の具体例としては、たとえばメチル基、エチル基等のアルキル基、シクロヘキシル基等のシクロアルキル基、フェニル基等のアリール基、ベンジル基等のアラルキル基や、 R^4 がメチル基、フェニル基等である R^4 。SiO-で示されるトリオルガノシロキシ基等が挙げられる。これらの中ではメチル基が好ましい。さらに反応性ケイ素基の具体的な構造としては、トリメトキシシリル基、メチルジメトキシシリル基、トリエトキシシリル基、メチルジエトキシシリル基が特に好ましい。また、反応性ケイ素基としては1種で使用しても良く、2種以上併用してもかまわない。

【0030】

反応性ケイ素基の導入は公知の方法で行えばよい。すなわち、たとえば以下の方法が挙げられる。

【0031】

(イ) 分子中に水酸基等の官能基を有するポリオキシアルキレン重合体に、この官能基に対して反応性を示す活性基および不飽和基を有する有機化合物を反応させ、不飽和基を含有するポリオキシアルキレン重合体を得る。もしくは、不飽和基含有エポキシ化合物との共重合により不飽和基含有ポリオキシアルキレン重合体を得る。ついで得られた反応生成物に反応性ケイ素基を有するヒドロシランを作用させてヒドロシリル化する。

【0032】

(ロ) (イ)法と同様にして得られた不飽和基を含有するポリオキシアルキレン重合体にメルカプト基および反応性ケイ素基を有する化合物を反応させる。

【0033】

(ハ) 分子中に水酸基、エポキシ基やイソシアネート基等の官能基を有するポリオキシアルキレン重合体に、この官能基に対して反応性を示す官能基および反応性ケイ素基を有する化合物を反応させる。

以上の方法のなかで、(イ)の方法、または(ハ)のうち末端に水酸基を有する重合体とイソシアネート基および反応性ケイ素基を有する化合物を反応させる方法が好ましい。

【0034】

(a) 成分の重合体は直鎖状、または分岐を有してもよく、その分子量は500～50,

000程度、より好ましくは1, 000~30, 000である。含有される反応性ケイ素基は重合体1分子中に少なくとも1個、好ましくは1. 1~5個存在するのがよい。分子中に含まれる反応性ケイ素基の数が1個未満になると、硬化性が不十分になり、また多すぎると網目構造があまりに密となるため良好な機械特性を示さなくなる。

【0035】

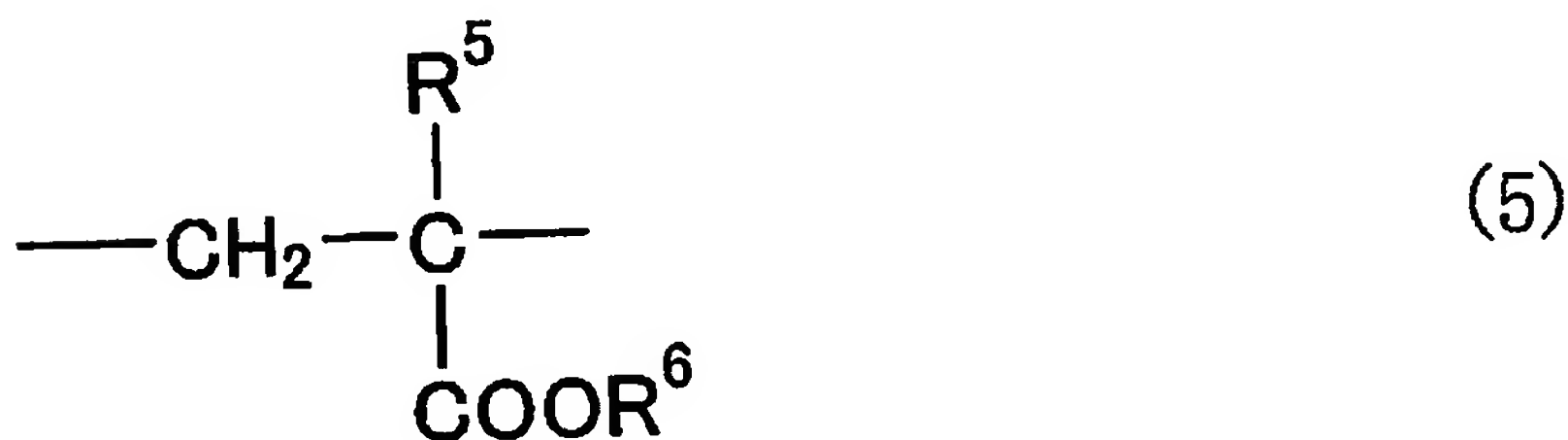
(a) 成分の具体例としては、特公昭45-36319号、同46-12154号、特開昭50-156599号、同54-6096号、同55-13767号、同55-13468号、同57-164123号、特公平3-2450号、米国特許 3, 632, 557、米国特許 4, 345, 053、米国特許 4, 366, 307、米国特許 4, 960, 844等の各公報に提案されているもの、また特開昭61-197631号、同61-215622号、同61-215623号、同61-218632号の各公報に提案されている数平均分子量6, 000以上、 M_w/M_n が1. 6以下の高分子量で分子量分布が狭いオキシアルキレン系重合体が例示できるが、特にこれらに限定されるものではない。

【0036】

上記の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体は、単独で使用してもよいし2種以上併用してもよい。また、反応性ケイ素基を有するビニル系重合体をブレンドして使用することもできる。

【0037】

反応性ケイ素基を有するビニル系重合体をブレンドする方法は、特開昭59-122541号、同63-112642号、特開平6-172631号等に提案されている。好ましい具体例は、反応性ケイ素基を有し分子鎖が実質的に、下記一般式(5)：

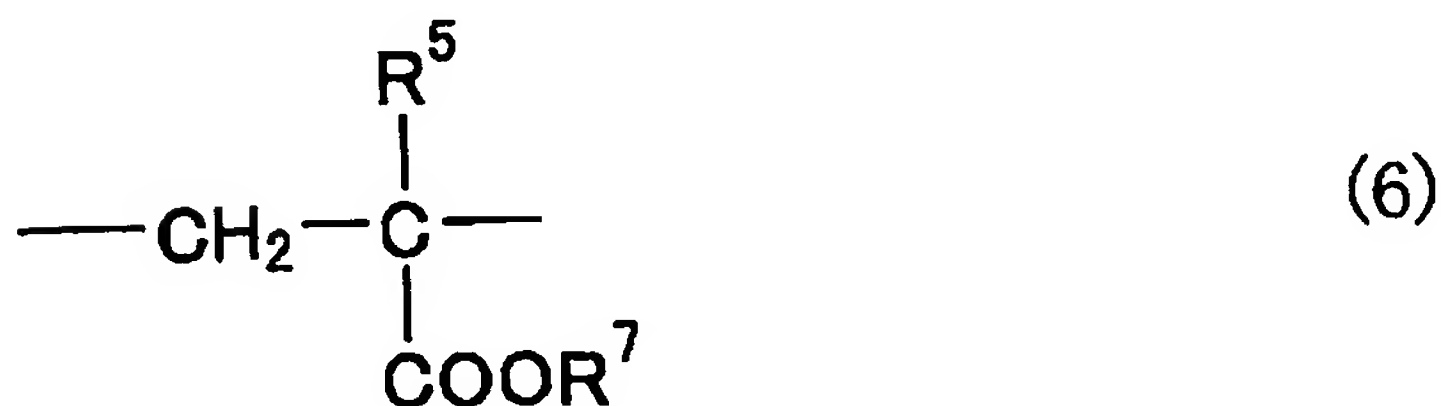


【0039】

(式中、 R^5 は水素原子またはメチル基、 R^6 は炭素数1~8のアルキル基を示す) で表される炭素数1~8のアルキル基を有するアクリル酸エステル単量体単位および(または)メタアクリル酸エステル単量体単位と、下記一般式(6)：

【0040】

【化7】



【0041】

(式中、 R^5 は前記に同じ、 R^7 は炭素数10以上のアルキル基を示す) で表される炭素数10以上のアルキル基を有するアクリル酸エステル単量体単位および(または)メタクリル酸エステル単量体単位からなる共重合体に、反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体をブレンドして製造する方法である。

【0042】

前記一般式(5)の R^6 としては、たとえばメチル基、エチル基、プロピル基、 n -ブチル基、 t -ブチル基、2-エチルヘキシル基等の炭素数1~8、好ましくは1~4、さらに好ましくは1~2のアルキル基が挙げられる。なお、 R^6 のアルキル基は単独でもよく、2種以上混合していてもよい。

【0043】

前記一般式(6)の R^7 としては、たとえばラウリル基、トリデシル基、セチル基、ステアaryl基、ベヘニル基等の炭素数10以上、通常は10~30、好ましくは10~20の長鎖のアルキル基が挙げられる。なお、 R^7 のアルキル基は R^6 の場合と同様、単独でもよく、2種以上混合したものであってもよい。

【0044】

該ビニル系共重合体の分子鎖は実質的に式(5)及び式(6)の単量体単位からなるが、ここでいう実質的とは該共重合体中に存在する式(5)及び式(6)の単量体単位の合計が50重量%をこえることを意味する。式(5)及び式(6)の単量体単位の合計は好ましくは70重量%以上である。

【0045】

また式(5)の単量体単位と式(6)の単量体単位の存在比は、重量比で95:5~40:60が好ましく、90:10~60:40がさらに好ましい。

【0046】

該共重合体に含有されていてもよい式(5)及び式(6)以外の単量体単位としては、たとえばアクリル酸、メタクリル酸等のアクリル酸；アクリルアミド、メタクリルアミド、 N -メチロールアクリルアミド、 N -メチロールメタクリルアミド等のアミド基、グリシジルアクリレート、グリシジルメタクリレート等のエポキシ基、ジエチルアミノエチルアクリレート、ジエチルアミノエチルメタクリレート、アミノエチルビニルエーテル等のアミノ基を含む単量体；その他アクリロニトリル、スチレン、 α -メチルスチレン、アルキルビニルエーテル、塩化ビニル、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル、エチレン等に起因する単量体単位が挙げられる。

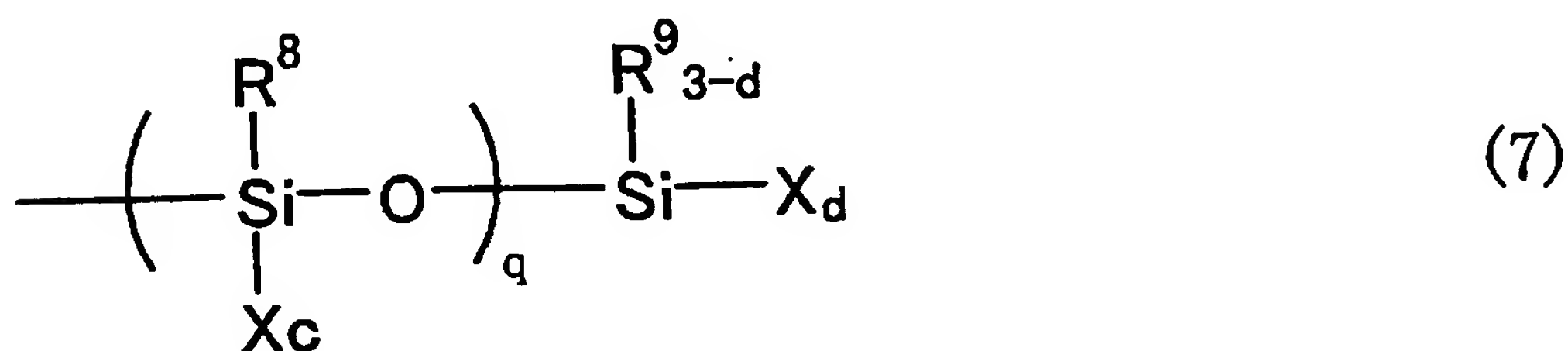
【0047】

該共重合体は、数平均分子量で500~100,000のものが取扱いの容易さの点から好ましい。

該共重合体が有する反応性ケイ素基は、一般式(7)：

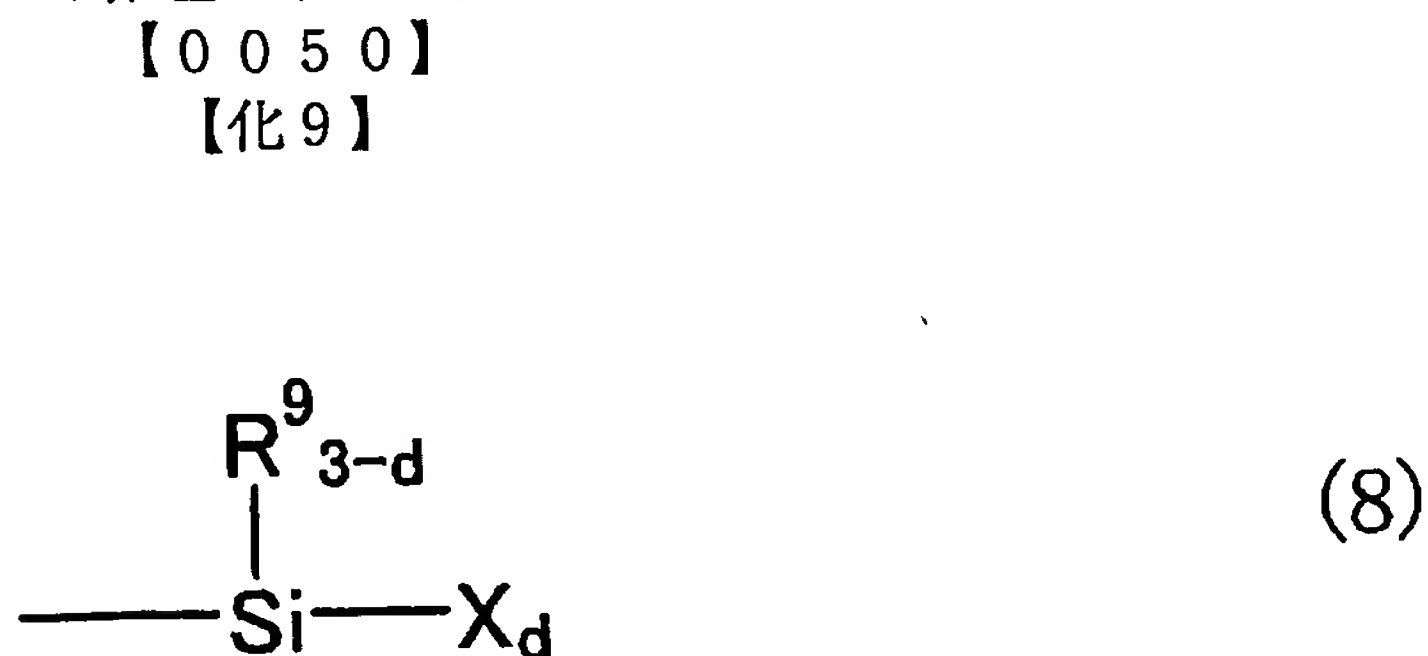
【0048】

【化8】



【0049】

(式中、 R^8 および R^9 は、いずれも炭素数 1～20 の置換もしくは非置換の 1 価の有機基またはトリオルガノシロキシ基、 X は水酸基または異種もしくは同種の加水分解性基、 c は 0、1 または 2 の整数、 d は 0、1、2 または 3 の整数で (c の和) + $d \geq 1$ を満足するものとする。 q は 0～19 の整数) で表される。経済性等の点から好ましい反応性ケイ素基は、一般式 (8) :



【0051】

(式中、 R^9 、 X 、 d は前記に同じ) で表される基である。
該共重合体中の反応性ケイ素基の個数は十分な硬化性を得る点から 1 分子平均 1 個以上、さらには 1.1 個以上、とくには 1.5 個以上が好ましい。

【0052】

式 (7) における加水分解性基の具体例としては、たとえばハロゲン原子、水素原子、アルコキシ基、アシルオキシ基、ケトキシメート基、アミノ基、アミド基、アミノオキシ基、メルカプト基、アルケニルオキシ基等が挙げられる。これらのうちでも加水分解性の緩やかさの点からメトキシ基、エトキシ基等のアルコキシ基が好ましい。

【0053】

また式 (7) における R^8 および R^9 の具体例としては、たとえばメチル基、エチル基等のアルキル基、シクロヘキシル基等のシクロアルキル基、フェニル基等のアリール基、ベンジル基等のアラルキル基等が挙げられる。さらに R^8 および R^9 は R^4_3SiO- (R^4 は前記に同じ) で示されるトリオルガノシロキシ基であってもよい。これらのうちではメチル基がとくに好ましい。

【0054】

さらに、反応性ケイ素基を有するビニル系重合体をブレンドしてなる有機重合体の製造方法としては、他にも、反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体の存在下で (メタ) アクリル酸エステル系単量体の重合を行う方法が利用できる。この製造方法は、特開昭 59-78223 号、特開昭 59-168014 号、特開昭 60-228516 号、特開昭 60-228517 号等の各公報に具体的に開示されているが、これらに限定されるものではない。

【0055】

本発明に使用される (b) 炭化水素系可塑剤は、一般によく知られたものが利用でき、特に脂肪族炭化水素の、例えばパラフィン系、オレフィン系、ジオレフィン系、ポリオレフィン系、アセチレン系等が好ましい。構造的には、直鎖状であっても分岐があってもよい。また、不飽和基含有炭化水素の重合体や、同重合体に水素を添加して得られる反応生成物も使用できる。

【0056】

更に好ましくはパラフィン系炭化水素であって、炭素数 6 以上、更には炭素数 8～18 のパラフィン系炭化水素を使用すると顕著な効果が見られる。炭素数が小さいものは高温で揮発するため、また炭素数が大きいものは低温で固体となるため、使用される温度条件によっては十分な効果が得られなくなる。

【0057】

具体的には、*n*-オクタン、2-エチルヘプタン、3-メチルヘプタン、*n*-ノナン、2-メチルオクタン、3-メチルオクタン、*n*-デカン、2-メチルノナン、3-メチルノナン、*n*-ウンデカン、*n*-ドデカン、*n*-トリデカン、*n*-テトラデカン、4,5-ジプロピルオクタン、3-メチルトリデカン、6-メチルトリデカン、*n*-ヘキサデカン、*n*-ヘプタデカン、*n*-オクタデカン、シクロヘキサン、シクロデカン等のシクロパラフィン系等が例示できるが、これに限定されるものではない。これらのうち、ポリオキシアルキレン重合体との相溶性の点から、芳香族環に水素を添加して得られるシクロパラフィン系が特に好ましい。

【0058】

本発明の硬化性樹脂組成物は、ポリオキシアルキレン重合体 (a) 100重量部に対して、炭化水素系可塑剤 (b) を5から50重量部含有する。好ましい下限は15重量部以上であり、より好ましい下限は20重量部以上である。好ましい上限は45重量部以下であり、より好ましい上限は40重量部以下である。

【0059】

本発明で使用される (c) 針状結晶性フィラーは、そのアスペクト比 (粒子の長さ/粒子の直径) が3以上のものが特に好ましい。アスペクト比が小さいと配合物に十分なチクソ性が得られず、垂れが生じたり垂直面に塗布した場合の初期固定性を十分に得られなかったりする。

【0060】

この様な針状結晶性フィラーとしては、セピオライト、アスベスト、ウォラストナイト、針状結晶型炭酸カルシウム、ガラス繊維、炭素繊維等の無機繊維および有機繊維の単独使用もしくはそれらの組み合わせが例示されるが、これらに限定されるものではない。これら針状結晶性フィラーのうち、針状結晶型炭酸カルシウムが貯蔵安定性及び機械物性の点から望ましい。

【0061】

本発明の硬化性樹脂組成物は、ポリオキシアルキレン重合体 (a) 100重量部に対して、針状結晶性フィラー (c) を10から200重量部含有する。

【0062】

さらに本発明の組成物には、反応性ケイ素基の反応を促進するシラノール縮合触媒が含有されていてもよい。この様なシラノール縮合触媒としては、テトラブチルチタネート、テトラプロピルチタネート、テトライソプロピルチタネート、チタンテトラアセチルアセトナート等のチタン酸エステル類；ジブチル錫ジラウレート、ジブチル錫マレエート、ジブチル錫ジアセテート、オクチル酸錫、ナフテン酸錫、ステアリン酸錫、パーサチック酸錫、ジブチル錫オキサイドとフタル酸エステルとの反応物、ジブチル錫ジアセチルアセトナート等の有機錫化合物類；アルミニウムトリアセチルアセトナート、アルミニウムトリスエチルアセトアセテート、ジイソプロポキシアルミニウムエチルアセトアセテート等の有機アルミニウム化合物類；ビスマストリス (2-エチルヘキソエート)、ビスマストリス (ネオデカノエート) 等のビスマス塩と有機カルボン酸または有機アミンとの反応物等；ジルコニウムテトラアセチルアセトナート、チタンテトラアセチルアセトナート等のキレート化合物類；オクチル酸鉛等の有機鉛化合物；ナフテン酸鉄等の有機鉄化合物；有機バナジウム化合物；ブチルアミン、オクチルアミン、ラウリルアミン、ジブチルアミン、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、ジエチレントリアミン、トリエチレンテトラミン、オレイルアミン、シクロヘキシルアミン、ベンジルアミン、ジエチルアミノプロピルアミン、キシリレンジアミン、トリエチレンジアミン、グアニジン、ジフェニルグアニジン、2,4,6-トリス (ジメチルアミノメチル) フェノール、モルホリン、*N*-メチルモルホリン、2-エチル-4-メチルイミダゾール、1,8-ジアザビシクロ (5,4,0) ウンデセン-7 (DBU) 等のアミン系化合物あるいはそれらのカルボン酸等との塩；過剰のポリアミンと多塩基酸とから得られる低分子量ポリアミド樹脂；過剰のポリアミンとエポキシ化合物との反応生成物等が例示されるが、

これらに限定されるものではなく、一般に使用されている縮合触媒を用いることができる。これらのシラノール触媒は単独で使用してもよく、2種以上併用してもよい。これらのシラノール縮合触媒のうち、有機金属化合物類、または有機金属化合物類とアミン系化合物の併用系が硬化性の点から好ましい。さらには、硬化速度が速い点からジブチル錫マレエート、ジブチル錫オキサイドとフタル酸エステルとの反応物、ジブチル錫ジアセチルアセトナートが好ましい。また、還元率の高い硬化性樹脂組成物が得られるという点から、ジオクチル酸錫とラウリルアミンの併用系が好ましく、とくに反応性ケイ素基含有ポリオキシアルキレン重合体 (a) 100重量部に対してジオクチル酸錫0.5から10重量部、ラウリルアミン0.1から10重量部添加するのが好ましい。

【0063】

本発明の硬化性樹脂組成物には上記以外にも必要に応じて充填剤、可塑剤、垂れ防止剤、着色剤、シランカップリング剤、補強性樹脂、保存安定性改良剤、老化防止剤、紫外線吸収剤、金属不活性化剤、オゾン劣化防止剤、光安定剤、アミン系ラジカル連鎖禁止剤、リン系過酸化分解剤、滑剤、顔料、発泡剤等の各種添加剤を配合してもよい。但し可塑剤と充填剤については、含有する炭化水素系可塑剤 (b) 及び針状結晶性フィラー (c) の量に応じて、その添加量を調整する必要がある。

【0064】

上記充填剤としては、ヒュームシリカ、沈降性シリカ、無水ケイ酸、含水ケイ酸およびカーボンブラックの如き補強性充填剤；炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ケイソウ土、焼成クレー、クレー、タルク、カオリン、酸化チタン、ガラスバルーン、シラスバルーン、有機バルーン等の如き充填剤等が使用できる。

【0065】

これら充填剤と針状結晶性フィラー (c) をポリオキシアルキレン重合体 (a) 100重量部に対し、10～500重量部の範囲で使用すれば好ましい結果が得られる。もちろんこれら充填剤は1種類のみで使用してもよいし、2種類以上混合使用してもよい。

【0066】

上記可塑剤としては、ジイソデシルフタレート、ジウンデシルフタレート、ジイソウンデシルフタレート、ジオクチルフタレート、ジブチルフタレート、ブチルベンジルフタレート等の如きフタル酸エステル類；アジピン酸ジオクチル、コハク酸イソデシル、セバシン酸ジブチル等の如き脂肪族二塩基酸エステル類；ジエチレングリコールジベンゾエート、ペンタエリスリトールエステル等の如きグリコールエステル類；オレイン酸ブチル、アセチルリシノール酸メチルの如き脂肪族エステル類；リン酸トリクレジル、リン酸トリオクチル、リン酸オクチルジフェニル等の如きリン酸エステル類、エポキシ化大豆油、エポキシ化アマニ油、エポキシステアリン酸ベンジル等の如きエポキシ可塑剤類；2塩基酸と2価アルコールとのポリエステル類等のポリエステル系可塑剤；ポリプロピレングリコールやその誘導体等のポリエーテル類；ポリ- α -メチルスチレン、ポリスチレン等のポリスチレン類等の可塑剤が単独または2種類以上の混合物の形で任意に使用できる。

【0067】

これら可塑剤と、充填剤を併用すると、硬化物の伸びを大きくできたり、多量の充填剤を混入できたりするので効果的である。

【0068】

上記垂れ防止剤としては、水添ヒマシ油誘導体；ポリアミドワックス；ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸バリウム等の金属石ケン類等が挙げられるが、使用目的または充填剤、補強材等の配合により必用な場合、適宜使用すればよい。

【0069】

上記着色剤としては、必要に応じて通常は無機顔料、有機顔料、染料等を使用する。

【0070】

上記シランカップリング剤としては、 γ -アミノプロピルトリメトキシシラン、 γ -アミノプロピルトリエトキシシラン、 γ -アミノプロピルメチルジメトキシシラン、N-(β -

ーアミノエチル)ー γ ーアミノプロピルトリメトキシシラン、Nー(β ーアミノエチル)ー γ ーアミノプロピルトリエトキシシラン、Nー(β ーアミノエチル)ー γ ーアミノプロピルメチルジメトキシシラン、1,3ージアミノイソプロピルトリメトキシシラン等の如きアミノ基含有シラン類； γ ーメルカプトプロピルトリメトキシシラン、 γ ーメルカプトプロピルジメトキシシラン等の如きメルカプト基含有シラン類；ビニルトリメトキシシラン、ビニルトリエトキシシラン、 γ ーメタクリロイルオキシプロピルトリメトキシシラン、 γ ーアクリロイルオキシプロピルメチルジメトキシシラン等の如きビニル型不飽和基含有シラン類； γ ークロロプロピルトリメトキシシラン等の如き塩素原子含有シラン類； γ ーイソシアネートプロピルトリエトキシシラン、 γ ーイソシアネートプロピルメチルジメトキシシラン等の如きイソシアネート含有シラン類；メチルジメトキシシラン、トリメトキシシラン、メチルジエトキシシラン等の如きハイドロシラン類等が具体的に例示されるが、これらに限定されるものではない。

【0071】

本発明における (a) ポリオキシアлкレン重合体および (b) 炭化水素系可塑剤及び (c) 針状結晶性フィラーからなる組成物の調製方法の具体的な例としては、(a) ポリオキシアлкレン重合体に (b) 炭化水素系可塑剤と (c) 針状結晶性フィラーを添加し、必要に応じて攪拌条件等を適宜調整し、均一に分散させればよい。他にも、各成分をミキサー、ロール、またはニーダー等を用いて混合するといった方法も採用される。実質的に水分のない状態で上記方法により本発明の組成物を調製することによって1液型組成物が得られ、密閉状態に保存すれば長期間の貯蔵に耐え、大気中に曝すれば表面より硬化を開始する。

【0072】

本発明の硬化性樹脂組成物は、弾性シーリング接着剤として建造物、土木工事、工業用途等の分野に有用である。

【0073】

(実施例)

以下に実施例を掲げて本発明を更に詳しく説明するが、本発明はこれら実施例のみに限定されるものではない。

【0074】

(実施例1)

国際公開第91/13928号の合成例1に記載された方法により合成された分子内に反応性ケイ素基を有するポリプロピレングリコール (分子量15000、 $M_w/M_n=1.1$) 100重量部、重質炭酸カルシウム (商品名: Carbital-110S (Imerys製)) 80重量部、針状結晶性フィラー (針状膠質炭酸カルシウム、商品名: SOCAL90A (SOLVAY製)) 40重量部、分子量3000のポリオキシプロピレン50重量部、シクロパラフィン系可塑剤 (商品名: Exxosolid110 (ExxonMobil製)) 20重量部、酸化チタン20重量部、アミドワックス系チクソ付与剤 (商品名: Crayvallac Super (Crayvallay製)) 15重量部、老化防止剤スチレン化フェノール1重量部、脱水剤ビニルトリメトキシシラン (商品名: A-171 (日本ユニカー株式会社製)) 2重量部、接着付与剤Nー(β ーアミノエチル)ー γ ーアミノプロピルトリメトキシシラン (商品名: A-1120 (日本ユニカー株式会社製)) 3重量部、硬化触媒ジブチル錫ビスアセチルアセテート1重量部を混練し硬化性樹脂組成物を得た。

【0075】

(実施例2)

針状結晶性フィラー (針状膠質炭酸カルシウム、商品名: SOCAL90A (SOLVAY製)) 40重量部を針状結晶性フィラー (セピオライト、商品名: PANGEL S9 (TOLSA製)) 40重量部に変更した以外は実施例1と同様の方法で、硬化性樹脂組成物を得た。

【0076】

(実施例 3)

針状結晶性フィラー（針状膠質炭酸カルシウム、商品名：SOCAL90A（SOLVAY製））40重量部を針状結晶性フィラー（ウォラストナイト、商品名：WIC40（Nordkalk製））40重量部に変更した以外は実施例1と同様の方法で、硬化性樹脂組成物を得た。

【0077】

(比較例 1)

針状結晶性フィラー（針状膠質炭酸カルシウム、商品名：SOCAL90A（SOLVAY製））40重量部を非針状の表面処理膠質炭酸カルシウム（商品名：Winnofil SPM（SOLVAY製））40重量部に変更した以外は実施例1と同様の方法で、硬化性樹脂組成物を得た。

【0078】

(比較例 2)

シクロパラフィン系可塑剤（商品名：ExxsolD110（ExxonMobil製））20重量部をフタル酸エステル系のDIDP（ジイソデシルフタレート）20重量部に変更した以外は実施例1と同様の方法で、硬化性樹脂組成物を得た。

【0079】

以上のようにして得られた実施例1～3、比較例1～2の組成物を次に示す方法で評価した。

押し出し性

組成物をポリエチレン製カートリッジ（FishBockh製）に充填し、口径6.5mmのノズルを取り付け、エアガンにて2barの圧で押出した。1分間に押出された組成物の重量を測定した。

【0080】

初期固定性

アルミ基材（150mm×30mm×2mm）に組成物を幅1.5cm、長さ10cm（ $=15\text{cm}^2$ ）で塗布した後（この時、厚みを統一するため張り合わす四隅に直径2mmのベアリングを接着させておく。）、直ちにもう1枚のアルミ基材（150mm×15mm×2mm）を張り合わせた。一方のアルミ基材を固定し、もう一方にバネ計りを取り付け、その計りを持って手でゆっくりと引き上げた。アルミ基材がずれた瞬間の計りの数値を読取った（5回行ない最大値と最小値を除いて、残りの3つを平均した）。

【0081】

【表1】

	実施例 1	実施例 2	実施例 3	比較例 1	比較例 2
可塑剤	シクロ パラフィン	シクロ パラフィン	シクロ パラフィン	シクロ パラフィン	フタル酸 エステル
充填剤	針状膠質 炭カル	セピオ ライト	ウォラスト ナイト	非針状 膠質炭カル	針状膠質 炭カル
初期固定性 (g)	166	208	182	163	173
押出性 (g/min)	465	305	395	283	254

【0082】

実施例1～3の組成物の押し出し性は全て300g/分以上で且つ初期固定性も全て160g以上であった。一方、比較例1、2は、初期固定性は160g以上であるが、押し出し性が300g/分以下であった。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 カートリッジからの押出し性が良好で、且つ垂直面に塗布したとき基材を瞬時に固定できる初期固定性を発現することのできる、反応性ケイ素基を有した有機重合体を含有する硬化性樹脂組成物を提供すること。

【解決手段】 (a) 1分子中に少なくとも1個の反応性ケイ素基を有するポリオキシアルキレン重合体と、(a) 100重量部に対して5から50重量部の(b)炭化水素系可塑剤、及び10から200重量部の(c)針状結晶性フィラーを含有することを特徴とする硬化性樹脂組成物。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-388884
受付番号	50301908170
書類名	特許願
担当官	第六担当上席 0095
作成日	平成15年11月25日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年11月19日
-------	-------------

特願 2003-388884

出願人履歴情報

識別番号

[000000941]

1. 変更年月日
[変更理由]
住 所
氏 名

1990年 8月27日
新規登録
大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号
鐘淵化学工業株式会社

2. 変更年月日
[変更理由]
住 所
氏 名

2004年 9月 1日
名称変更
大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号
株式会社カネカ

特願 2 0 0 3 - 3 8 8 8 8 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 9 3 2 2 7 9 2 5]

1. 変更年月日

1 9 9 3 年 1 2 月 1 7 日

[変更理由]

新規登録

住 所

ベルギー王国、B - 2 2 6 0 ウェステルローーウーベル、ニ
ーベルハイトストラート 1 6

氏 名

カネカ ベルギー ナムローゼ フェンノートシャップ

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/017194

International filing date: 18 November 2004 (18.11.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2003-388884
Filing date: 19 November 2003 (19.11.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 10 February 2005 (10.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse